

第4期教育振興基本計画：持続可能な社会の創り手へ

DX時代の学校教育－変わる社会・学校・学びを概観する－

宮田 純也

一般社団法人未来の先生フォーラム 代表理事

横浜市立大学 特任准教授

2025年1月31日

公開日：2026年2月28日

今まで様々な視点で社会と学校教育の変化について概観してきたが、今後の学校教育を考えるうえで政策的要諦となる2023年6月16日に閣議決定された「第4期教育振興基本計画（2023～2027年度）」について既存の内容と関連付けながら触れておきたい。

教育振興基本計画とは、我が国の教育政策が向かう方向性を示すものであり、教育基本法第17条第1項に基づいて策定されている。第4期となる本計画は2040年以降の社会変化を見据え、予測困難な未来社会における教育の役割を羅針盤的に示し、日本の教育が社会全体の持続的発展を牽引する力となることを目指している。「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を基本理念とし、5つの方針と16の目標を掲げている。本章では基本理念について解説する。

新たな教育振興基本計画【概要】（令和5年度～9年度）		
<p>我が国の教育をめぐる現状・課題・展望</p> <p>教育の普遍的な使命：学制150年、教育基本法の理念・目的・目標（不易）の実現のための、社会や時代の変化への対応（流行）</p> <p>▶ 教育振興基本計画は予測困難な時代における教育の方向性を示す羅針盤となるものであり、教育は社会を牽引する駆動力の中核を担う</p> <p>【社会の現状や変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の拡大 ロシアのウクライナ侵略による国際情勢の不安定化 VUCAの時代（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性） 少子化・人口減少や高齢化 グローバル化・地球規模課題 DXの進展、AI・ロボット・グリーン（脱炭素） 共生社会・社会的包摂 精神的豊かさの重視（ウェルビーイング） 18歳成年・こども基本法 等 		
<p>第3期計画期間中の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> （初等中等教育）国際的に高い学力水準の維持、GIGAスクール構想、教職員定数改善 （高等教育）教学マネジメントや質保証システムの確立、連携・統合のための体制整備 （学校段階横断）教育費負担軽減による進学率向上、教育研究環境整備や耐震化 等 		<p>第3期計画期間中の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でのグローバルな交流や体験活動の停滞・不登校・いじめ重大事態等の増加 学校の長時間勤務や教師不足・地域の教育力の低下、家庭を取り巻く環境の変化 高度専門人材の不足や労働生産性の低迷・博士課程進学率の低さ 等
<p>次期計画のコンセプト</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来の予測が困難な時代において、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決などを通じて、持続可能な社会を維持・発展させていく 社会課題の解決を、経済成長と結びつけてイノベーションにつなげる取組や、一人一人の生産性向上等による、活力ある社会の実現に向けて「人への投資」が必要 Society 5.0で活躍する、主体性、リーダーシップ、創造力、課題発見・解決力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成 </div> <div style="width: 45%;"> <p>日本社会に根差したウェルビーイング（※）の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるための教育の在り方 幸福感、学校や地域でのつながり、利他性、協働性、自己肯定感、自己実現等が含まれ、協働的幸福と獲得的幸福のバランスを重視 日本発の調和と協調（Balance and Harmony）に基づくウェルビーイングを発信 <p><small>※身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。</small></p> </div> </div>		
<p>今後の教育政策に関する基本的な方針</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>① グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的に社会の形成に参画、持続的社会的発展に寄与 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、大学教育の質保証 探究・STEAM教育、文理横断・文理融合教育等を推進 グローバル化の中で留学等国際交流や大学等国際化、外国語教育の充実、SDGsの実現に貢献するESD等を推進 リカレント教育を通じた高度人材育成 </div> <div style="width: 30%;"> <p>② 誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 子供が抱える困難が多様化・複雑化する中で、個別最適・協働的学びの一体的充実やインクルーシブ教育システムの推進による多様な教育ニーズへの対応 支援を必要とする子供の長所・強みに着目する視点の重視 地域社会の国際化への対応、多様性、公平・公正、包摂性（DE&I）ある共生社会の実現に向けた教育を推進 ICT等の活用による学び・交流機会、アクセシビリティの向上 <p>人生100年時代に複雑化する生涯にわたって学び続ける学習者</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>③ 地域や家庭と共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 持続的な地域コミュニティの基盤形成に向けて、公民館等の社会教育施設の機能強化や社会教育人材の養成と活躍機会の拡充 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進、家庭教育支援の充実による学校・家庭・地域の連携強化 生涯学習を通じた自己実現、地域や社会への貢献等により、当事者として地域社会の担い手となる </div> </div>		
<p>④ 教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>DXに至る3段階（電子化→最適化→新たな価値（DX）において、第3段階を見据えた、第1段階から第2段階への移行の着実な推進</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>GIGAスクール構想、情報活用能力の育成、校務DXを通じた働き方改革、教師のICT活用指導力の向上等、DX人材の育成等を推進</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>教育データの標準化、基盤的ツールの開発・活用、教育データの分析・利活用の推進</p> </div> </div> <p>デジタルの活用と併せてリアル（対面）活動も不可欠、学習場面等に合わせた最適な組合せ</p>		
<p>⑤ 計画の実効性確保のための基盤整備・対話</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>学校における働き方改革、処遇改善、指導・運営体制の充実の一体的推進、ICT環境の整備、経済状況等によらない学び確保</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>NPO・企業等多様な担い手との連携・協働、安全・安心で質の高い教育研究環境等の整備、児童生徒等の安全確保</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>各関係団体・関係者（子供を含む）との対話を通じた計画の策定等</p> </div> </div>		

出所： https://www.mext.go.jp/content/20230615-mxt_oseisk02-100000597_02.pdf

社会課題の多様化とその複雑化に対応するためには、社会の変化に適応し、新しい価値を創造できる人材の育成が不可欠である。持続可能な社会を実現するための中心的な役割を果たすのは、人への投資を重視する教育政策である。特に主体性、課題解決能力、創造力、論理的思考力といった能力を持つ人材が求められる。本計画では、探究学習などの導入により、これらの能力を育成することが提案されている。これに加え、実社会との連携を強化し、地域や産業界と協働する学習機会を提供することが重要である。これにより、学びと実践を統合し、児童生徒は現実世界の課題を発見し、解決に向けて取り組むことができる。具体例として、地域課題に基づいたプロジェクト型学習や企業と連携したインターンシップの導入が挙げられる。これらの取り組みによって、子どもは学びの意義を実感し、実社会での応用力や創造性、深い理解、自発性、集合的知性、批判的思考など、人生100年時代における資質能力を養うことが可能になる。これにより様々な移行をポジティブに行う力を身に着けることは、人生100年時代に複線化する生涯にわたって学び続ける学習者として成長することであろう。

さらに、ICTを活用した教育の高度化も本計画の重要な柱である。遠隔教育やハイブリッド学習の普及により、学習者は地理的・時間的な制約を超えた学びの機会を得ることができる。AIやビッグデータを活用した個別最適な学びは、一人ひとりの学習スタイルに応じた指導を可能にし、学びの質を向上させる。また、国際的な視野を育成するための多言語教育や異文化理解を深めるプログラムも重要であり、生徒がグローバル社会に貢献する力を養うことが期待される。グローバルな課題に対する理解と行動力を高めるためには、地球環境問題や人権問題をテーマとしたカリキュラムを導入することも効果的である。

持続可能な社会を築くには、環境意識を育む教育も欠かせない。生徒に対して、資源の持続可能な利用や循環型経済の仕組みを理解させ、行動に移す力を養うことが求められる。例えば、学校内でのリサイクル活動や、地域社会と連携した環境保護プロジェクトに参加することで、環境への関心と責任感を高めることができる。これにより、持続可能な社会の実現に寄与する次世代のリーダーを育成することができるのである。

また、ウェルビーイングの向上は、社会全体の幸福度を高める上で欠かせない要素である。本計画が定義するウェルビーイングは、身体的、精神的、社会的に良好な状態を包括する概念であり、短期的な幸福感を超えて、人生の意義や生きがいを含むものである。日本社会に根差した「利他性」や「協調性」といった価値観を重視しながらも、個人の自尊心や自己効力感を育む教育が求められている。例えば、いじめ防止やメンタルヘルスケアの充実を通じて生徒の心理的健康を支援し、心の安定と社会的つながりを強化することが挙げられる。多様性の尊重と共感力の育成も、グローバル化が進む現代社会において欠かせない。

また、教師のウェルビーイングも生徒の学びの質に直結する要因である。教員の業務負担

軽減を目的とした ICT ツールの導入や、同僚間の協働を促進する文化の形成が、より良い教育環境の構築に寄与する。こうした取り組みは、教育の質を高め、持続的で効果的な学びの場を実現する基盤となる。さらに、スクールカウンセラーや保健室の役割を強化し、子どもたちの心身の健康を包括的にサポートする体制づくりも求められる。心のケアだけでなく、栄養指導や運動習慣の促進といった取り組みも、子どもたちの全体的な健康に寄与する。

ウェルビーイングを深化させるためには、学校教育だけでなく、生涯学習の推進も不可欠である。成人教育や地域における学びの場の整備は、自己実現を追求する機会を生涯にわたって提供し、社会全体のレジリエンスを高める。これにより、個人の幸福と社会の安定が同時に促進される。例えば、地域コミュニティでのワークショップや、リタイア後の学び直しプログラムは、生涯にわたる学習意欲を支え、人々の社会参加と自立を促す。本計画が掲げる目標は、個人の成長と社会的成功のバランスを取りつつ、持続可能な未来を築くための基盤を形成するものである。

教育は社会の根幹であり、その質と方向性が、次世代の幸福と繁栄を左右する。本計画の実施を通じて、教育が社会に果たす役割の重要性が再確認されるとともに、変化に対応し続ける力が日本の未来を支える鍵となるだろう。持続可能な社会の創り手を育成し、全体的なウェルビーイングを高めることは、経済成長と文化的豊かさの両方を実現するための不可欠な要素であり、今後も継続的な取り組みが求められる。

最後に、ウェルビーイングの向上には、学校全体での包括的なアプローチが必要である。スクールカウンセラーや保健室の役割を強化し、子どもたちの心身の健康を包括的に支援する体制の整備が求められる。また、家庭や地域社会との連携を深めることで、生徒が安心して学べる環境づくりが進められる。このように、教育の質の向上とウェルビーイングの実現は、互いに密接に関連しながら、次世代の社会的成功と幸福を支える柱となるのである。

どのような時代も変わるのは社会やテクノロジー、ツール、教育方法であり、教育の持つ普遍的な価値や教育基本法第 1 条に掲げられている「教育は、人格の完成をめざし、平和的な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値を尊び、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成を期して行わなければならない」という目的は変わることはない。私たちがいま生きている社会やテクノロジーなどについて適切な認識で学び、変容しながら実践を重ねていくことが大切ではないだろうか。

参考文献：

- ・ 文部科学省. (n.d.). 『教育振興基本計画』 https://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/index.htm
- ・ 宮田純也 著. (2025). 『教育ビジネス』. クロスメディア・パブリッシング.

- ・宮田純也 編著.(2023). 『SCHOOL SHIFT』. 明治図書.
- ・宮田純也 編著.(2024). 『SCHOOL SHIFT2』. 明治図書.
- ・リンダ・グラットン、アンドリュー・スコット 著、宮田純也 監修.(2023). 『16歳からのライフ・シフト』. 東洋経済新報社.